



補考
今更物
和舟本
巻之二

二



食物和糖本草諸補第七

豆 穀之部

○豌豆 本綱 耳平 豆類

豌豆一名小豆とも云ふ 豆類と云ふは豆科の植物

胡り豌豆は丸くするは形葉のこし 豌豆は色あざむきか
あめし平網はし 豌豆は林冬たひをまろし二月月節に
うれ百穀の中一は中よりうれもの 豌豆は二月月節に
とんと数多し一はつりあし 豌豆は林冬たひをまろし二月月節に
ちりさし 豌豆はし 豌豆はし 豌豆はし 豌豆はし 豌豆はし

豌豆の脾胃をけり 世病とのは逆とて止る熱ととも

豌豆の清濁とてあの中厚と判り 腹の脹とるをり

豌豆の榮衛とてあ煮て之の乳とてゆし 乳肉は

豌豆の癰腫とてあやうく移り せめて毒をぬき

豆

續豆は虚しくいとふく合ふあけ人のいぢらんとせら

○绿豆ゴントウ木綱キツナ 身毒ミドク 毒毒ドクドク

又軽黄の紙と日合すと肉は新しく櫃子殺と及んふ

绿豆の腫と消して氣を下し寒熱を治し世病治す

绿豆は熱とろり小便と利して菜の毒と病治す

绿豆は元氣補ひ経脈と通らす物と毒を治す

世傳と枕とこれに病やめ目の病と味達除す

とらふそ用ひたまは百日の食和をせしめ

のひさきぞうくせむうの例とせりて續豆

ハ赤豆下りいふまゝくくらすゆいおんいん
 ーそめいろうあや

真之部

○藕魚クノイ

藕魚温じやがらし様毒病とあつはさる小合

藕魚は氣力ふ菜質小吉法のあゆる小書物あり

○韮ニ

辛辛チのニ首めはあその結らうく

韮は平又腫補ひを氣了者也麻之種は

箱 いた 諸病 小葉 白痢 霍乱 の吐瀉 くのつじ

○ 歸 世俗 小葉 白痢 霍乱 の吐瀉 くのつじ

歸 世俗 小葉 白痢 霍乱 の吐瀉 くのつじ

毒 あり 小葉 白痢 霍乱 の吐瀉 くのつじ

毒 あり 小葉 白痢 霍乱 の吐瀉 くのつじ

毒 あり 小葉 白痢 霍乱 の吐瀉 くのつじ

○ 本綱 舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

舟 温 小毒

○ 葱 薑 白

本綱

辛 平 葉 温 根 温 辛 薑 薑

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

い 葱 薑 白

葱を煮て熱あり白くハ消れとてハ熱傷を以て湯中
 湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す
 小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す
 小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す
 小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す

小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す
 小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す
 小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す
 小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す

○ 胡木綱

小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す
 小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す
 小蒜の二色竹葉性ハ根の下ノ中ノありとて其の
 根を煮て湯に浸し之を煮て中風やあせと利して毒を治す

馬の芳人のやうにせいたくうらむふくまゆみ地あつてくび
らりありありとくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 大腸を補て移と除さ大腸と利はあめ
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 九宮氣と海(毒)毒氣一物とあつて赤後
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 氣と物と申(心)脈と換とらるる
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 丹と丹と申(心)脈と換とらるる
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 丹と丹と申(心)脈と換とらるる
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 丹と丹と申(心)脈と換とらるる
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 丹と丹と申(心)脈と換とらるる
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 丹と丹と申(心)脈と換とらるる
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

○馬 本綱

後 毒

夫名みゆのまはるうらむ馬

馬の芳人のやうにせいたくうらむふくまゆみ地あつてくび
らりありありとくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 大腸を補て移と除さ大腸と利はあめ
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 九宮氣と海(毒)毒氣一物とあつて赤後
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 氣と物と申(心)脈と換とらるる
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

芳人 丹と丹と申(心)脈と換とらるる
のうらまの申あつてくわくも合すうらむ芳人のまはるうらむ馬

三〇日 老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

世俗よりふんごころこころよりのよ付たり

〇日 老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

馬老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

ありきれとくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

一してみとくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

乃親とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

馬老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

冷うしてりともり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

のちいよのまん

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

○老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

老とくもり孫り久年よるる腰の痛し傳へ

〇 藪

ひん年百葉うの毒はさしひの津液つらむをえ
ひん年百葉うの毒はさしひの津液つらむをえ
ひん年百葉うの毒はさしひの津液つらむをえ
ひん年百葉うの毒はさしひの津液つらむをえ

果之部

〇 批犯 本綱

批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒
批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒
批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒

批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒
批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒
批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒

批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒
批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒
批犯本綱 中酸平 毒 批犯本綱 中酸平 毒

獸之部

〇 羊肉

羊肉 本綱 苦耳大熱 毒 羊肉 本綱 苦耳大熱 毒
羊肉 本綱 苦耳大熱 毒 羊肉 本綱 苦耳大熱 毒
羊肉 本綱 苦耳大熱 毒 羊肉 本綱 苦耳大熱 毒

羊肉 本綱 苦耳大熱 毒 羊肉 本綱 苦耳大熱 毒
羊肉 本綱 苦耳大熱 毒 羊肉 本綱 苦耳大熱 毒
羊肉 本綱 苦耳大熱 毒 羊肉 本綱 苦耳大熱 毒

○飛翫

飛翫は翫の痛よ又翫は風目より目まじりて翫
翫翫と風の痛よ又翫は風目より目まじりて翫
翫翫と風の痛よ又翫は風目より目まじりて翫

臭之部

○氷魚

十月はより正月のまじりて氷魚は氷魚は氷魚
氷魚は氷魚は氷魚は氷魚は氷魚は氷魚は氷魚
氷魚は氷魚は氷魚は氷魚は氷魚は氷魚は氷魚

○乾糶

乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶
乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶
乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶

○乾糶

乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶
乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶
乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶は乾糶

○乾

乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾
乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾
乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾は乾

教之部

○**熊本綱** 耳温 毒毒

解ハ温のぬるりゆめありきとき
又さたうとらりてむ月をまや
りら未ハ気道中とわくめよほよめ毒毒とくくく
りら未ハ脾と推すれ痛もろ中究る毒毒とわつし心
りら公冥膠中 此毒氣とらる肉と毒一と瘡とら中ら
りら未ハ中とわくめ膠中とあす又ハ此のあきくあれ
りら未と福肉と合せ合すの毒ハ増あよさらき子刺
りら子と合はして腹熱めとらるる眠のよわき
りらと便の三合すは強きと久しつらるる毒とあ
りら未とらるは増あらむ毒ハ思とら成るるとらなる

りらけ中全瘡毒毒およめらるる心下 痲骨とらる

解乃性産後よとらとさすハカと福大日等の

風俗りて産後とらるる傳と用は此のらるる事

ぞと推察とらるは解ハ福義乃物あれよそのと

何人ぞ推察とらるは解とて美らとらとわくは

こびて用ひよめとらとめは福とらとらとら

ハ毒は保のあ乃やらとららるらとらとらとら

後の本はれとらとめはとららとらとらとらとら

あわそこのまざる事とらとらとらとらとらとら

同日とらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

少^{タビヤウ}き事^サるるに後^{サニゴ}病^シおぼるはつらん言^シてい

く百^{ヒヤク}病^{ビョウ}ハ氣^キちりし生^シ年^{ネン}色^{シキ}ハ産^{サン}母^ボとくド然^シと

解^{トク}毒^{ドク}也^ヤと移^ヒつら成^ナる年^{ネン}存^{ゾン}よは十^{ジュウ}の物^{モノ}と云^フ

の毒^{ドク}ハと氣^キお^シてお^シてあ^リま^シお^シ産^{サン}母^ボハ

血^{ケツ}熱^{ネツ}さくんよま^シ不^フ徳^{トク}病^{ビョウ}は^シ監^{カン}存^{ゾン}あ^リら^シ肝^{カン}胃^イ

乃^ナ氣^キのり^リく^クる^ルま^シ月^{ゲツ}心^{シン}の毒^{ドク}也^ヤと十^{ジュウ}分^{ブン}移^ヒる

うり大^{ダイ}毒^{ドク}急^{キウ}性^{セイ}は^シ出^デく^ク也^ヤ程^ケ天^{テン}地^ヂの^ノあ^リは

理^リの^ノ毒^{ドク}と^シつ^ツる^ルま^シあ^リま^シば^バ毒^{ドク}業^{ヤク}後^ゴと^シ

葉^{エフ}と^シま^シる^ルま^シも^モ竹^{チク}葉^{エフ}を^シれ^レハ^ハ何^{ナニ}の^ノ毒^{ドク}也^ヤ此^{コノ}

指^{サシ}乃^ナあ^リて^テ平^{ヘイ}生^{セイ}乃^ナ日^{ニチ}用^{ヨウ}あ^リは^シる^ルこ^ト也^ヤ

飯^イも^モも^モ解^{トク}ら^シら^シる^ルあ^リは^シる^ルま^シら^シる^ル也^ヤ

産^{サン}母^ボハ^シ産^{サン}婦^フ也^ヤと^シる^ルま^シら^シる^ル也^ヤ

産^{サン}母^ボハ^シ産^{サン}婦^フ也^ヤと^シる^ルま^シら^シる^ル也^ヤ

家^イと^シる^ルま^シら^シる^ル也^ヤ

餅^{モチ}花^{ハナ}は^シ名^ナ字^ジ正^{テイ}月^{ゲツ}の^ノ解^{トク}也^ヤと^シる^ル也^ヤ

餅^{モチ}花^{ハナ}は^シ名^ナ字^ジ正^{テイ}月^{ゲツ}の^ノ解^{トク}也^ヤと^シる^ル也^ヤ

餅^{モチ}花^{ハナ}は^シ名^ナ字^ジ正^{テイ}月^{ゲツ}の^ノ解^{トク}也^ヤと^シる^ル也^ヤ

餅^{モチ}花^{ハナ}は^シ名^ナ字^ジ正^{テイ}月^{ゲツ}の^ノ解^{トク}也^ヤと^シる^ル也^ヤ

餅^{モチ}花^{ハナ}は^シ名^ナ字^ジ正^{テイ}月^{ゲツ}の^ノ解^{トク}也^ヤと^シる^ル也^ヤ

餅^{モチ}花^{ハナ}は^シ名^ナ字^ジ正^{テイ}月^{ゲツ}の^ノ解^{トク}也^ヤと^シる^ル也^ヤ

餅^{モチ}花^{ハナ}は^シ名^ナ字^ジ正^{テイ}月^{ゲツ}の^ノ解^{トク}也^ヤと^シる^ル也^ヤ

餅^{モチ}花^{ハナ}は^シ名^ナ字^ジ正^{テイ}月^{ゲツ}の^ノ解^{トク}也^ヤと^シる^ル也^ヤ

日らあつと海は作りて月も大也身もくむ小辛^ニ物も
 日らあつと水は作りて月も大也身もくむ小辛^ニ物も
 日らあつと水は作りて月も大也身もくむ小辛^ニ物も
 日らあつと水は作りて月も大也身もくむ小辛^ニ物も

○**桃實** 辛 破 其 微 毒 多 食 於 人 有 親 細

時為の既^モ桃の性^ハ父^ノや^ク花^ニは^シく^シや^シく^シ子^ヲけ^キの^ハよ
 之^ヲ多^クも^シ桃^ノの^子と^わく^シと^り桃^ハ十^倍の^粒と^桃よ^ハ云
 月^ハよ^シの^子桃^ハ七^月は^実の^りも^又十^月時^々も^そて^実と^云
 あ^つと^めつ^とと^わく^シと^り桃^ハ白^ノ色^ニは^して^多く^食う^ルを^作り^大桃^ハ
 蓋^ハか^りて^多く^食う^ルの^粒あ^つと^り桃^ハ世^ニは^もち^ろう^と
 牙^ハく^して^多く^食う^ルの^粒あ^つと^り桃^ハ世^ニは^もち^ろう^と
 牙^ハく^して^多く^食う^ルの^粒あ^つと^り桃^ハ世^ニは^もち^ろう^と

日^ハの^氣と^わり^合て^水入^六八^淋病^もく^して^世に^世に^世

日^ハの^氣と^わり^合て^水入^六八^淋病^もく^して^世に^世に^世

日^ハの^氣と^わり^合て^水入^六八^淋病^もく^して^世に^世に^世

日^ハの^氣と^わり^合て^水入^六八^淋病^もく^して^世に^世に^世

日^ハの^氣と^わり^合て^水入^六八^淋病^もく^して^世に^世に^世

○**桃花** 本 綱 苦 平 辛 毒 三月三日はより

桃の花石淋の薬の氣のそは大小便と通しと此
 桃の花石淋の薬の氣のそは大小便と通しと此

梅の膠石淋と治し下劑とめ花はくこころの

○木風 本綱 酸温 毒 本經は檳榔子 煨檀子

きなりがけくつあはは木風の年がうらぐりてはくこころの
凡と世と一也後よりうらぐりのましりてはくこころの
し本風くくこころの多しありこれ多し是はくこころの
いなり木風ハこころのありて肝の膠は又本風は
解ハ肝の膠のあらはるるにばすのつこころのまはら
とくありてはくこころの

木風と脚氣の葉効有りて霍亂はくこころの

木風と唾涎やしこは写る水浄は熱制病もな

木風と食と消を以業衛と細くありけりありて

木風と食の食するに苦骨と換しとてめありて

木風と湯をきしは痲膝のまはらきつじふくありて

本風と脾胃とむをけしは後めりてはくこころの

本風の部でうらむるまにありてはくこころの

本風の部と臭の科理あり 今又入るるもくありて

色と部

○伯勞 本經は味苦一毛ハ小兒疳子病の経子

此日お経して膠去り有りありてはくこころの
この病乃も有りまき伯勞のありてはくこころの
りつてはくこころのありて

百舌をいへばはくこころのありてはくこころの

百舌の灰なりてはくこころのありてはくこころの

百舌の灰なりてはくこころのありてはくこころの

百毒の原^スと云^フ方^ク療^ス骨^ノ熱^ヲよ^ク治^スる^ノの^ニ効^ルる^ノ也

世^セ 方^クサ^ノノ^ブ 効^ルる^ノ部^ト

○若^セ薪^リ 本^ニ綱^ト 草^ノ辛^ク毒^シ

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト 若^セ薪^リ 効^ルる^ノ部^ト

○胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 本^ニ綱^ト 草^ノ辛^ク温^ク毒^シ

胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト 胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト 胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト

胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト 胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト 胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト

胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト 胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト 胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト

胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト 胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト 胡^コ蘿^ロ蔔^{ボク} 効^ルる^ノ部^ト

○ 枳椇

ついでにのちかやうにさうり食をとり
枳椇の果は、胃腸を潤し、食慾をさげ、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、

○ 羊蹄菜

羊蹄菜は、胃腸を潤し、食慾をさげ、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、

穀之部

○ 米醋 本綱 酸苦温 有毒

米醋は、胃腸を潤し、食慾をさげ、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、

米の醋は、胃腸を潤し、食慾をさげ、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、

米の醋は、胃腸を潤し、食慾をさげ、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、

○ 水線

水線は、胃腸を潤し、食慾をさげ、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、

水線の果は、胃腸を潤し、食慾をさげ、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、

果之部

○ 李子 實本綱 酸温 有毒

李子は、胃腸を潤し、食慾をさげ、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、
けいせいの不調を治す。また、

菅^日と少使^少るめ胸^胸とわくじつは小管^{小管}すへきあり

菅^日と精^精とま^まん空^空間^間や薄^薄しゆとく^{とく}むあり

菅^日肉^肉とま^まん空^空間^間と脈^脈と人^人よつむあり

菅^日とく^くま^まの海^海のめ^めに^に進^進丸^丸の^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

菅^日と腎^腎とま^まん空^空間^間と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

菅^日所^所と海^海とま^まん空^空間^間と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

菅^日の^の心^心と^と丸^丸と^と菅^菅目^目ふ^ふ日^日と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

○[○]雄^雄菅^菅尿^尿本^本綱^綱若^若温^温微^微毒^毒一^一名^名白^白下^下毒^毒は^はま

世^世後^後と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

菅^日爪^爪と^と丸^丸と^と菅^菅目^目ふ^ふ日^日と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

け^けら^らと^と丸^丸と^と菅^菅目^目ふ^ふ日^日と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

ら^らあ^あと^と丸^丸と^と菅^菅目^目ふ^ふ日^日と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

菅^日の^のあ^あん^んと^と丸^丸と^と菅^菅目^目ふ^ふ日^日と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

魚^魚之^之部^部

○[○]鱸^鱸本^本綱^綱其^其年^年有^有中^中毒^毒は^はま

そ^そり^りの^のあ^あん^んと^と丸^丸と^と菅^菅目^目ふ^ふ日^日と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

古^古来^来の^のあ^あん^んと^と丸^丸と^と菅^菅目^目ふ^ふ日^日と^とく^くま^まの^のま^まる^るその^のま^まと^とく^く

経く之は脛補の骨や肝腎とす一監を全
經く之腸胃を水氣治とありてありて
經く之脾胃の弱きにして胃の食積を
經く之腸を以て考るる虫積とありてあり
中へるありて經く之腸胃を以て考るる虫積とありてあり
○上の長

と名を以て温瘥とすませる魚と物とを
と名を以て温瘥とすませる魚と物とを
○魚部 本綱 可鹹平 無毒
魚部 本綱 可鹹平 無毒
魚部 本綱 可鹹平 無毒

此のしんぐくく
魚部 本綱 可鹹平 無毒
魚部 本綱 可鹹平 無毒
魚部 本綱 可鹹平 無毒

○ 鱗 魚部 本綱 可鹹平 無毒
鱗 魚部 本綱 可鹹平 無毒
鱗 魚部 本綱 可鹹平 無毒

えりしうし

訶子

味きぬ

あつむらば理にまらてお砕はと用ひ

核

とらふらうむとこハ砕ふつこころあつくぬ

ら

半河らりこげあやうふうじあり種合園をか

移り

屋は月ゆふは又すうのあろよるうたどり

ら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

丁香

味きぬ

丁子かろうりあまじし丁子しんじ

ら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

のあり

木香

味きぬ

木香はじまうらうらうらうらうらうらうら

安息香

味きぬ

安息香はじまうらうらうらうらうらうらうら

あつむらば理にまらてお砕はと用ひ

核とらふらうむとこハ砕ふつこころあつくぬ

ら半河らりこげあやうふうじあり種合園をか

移り屋は月ゆふは又すうのあろよるうたどり

ららうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

白檀

白檀香

そのまゝに乾くして粉をとりて用ひ

薑

薑

そのまゝに乾くして粉をとりて用ひ

蘇合香油

蘇合香油

布を敷いて乾かす

乳香を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

かけを湯煎して用ひ

魚肝油を湯煎して用ひ

乳香を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

かけを湯煎して用ひ

犀角

犀角

そのまゝに乾くして粉をとりて用ひ

候附子の粉

辰砂

そのまゝに乾くして粉をとりて用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

候附子の粉を湯煎して用ひ

ありて後々うらふらうと申風よとそまかの緒ハあし
ぐくまきしぐくし

○友視丹

木香

白味三味

あつらひじゆゆらぬらうと

鶴風

白味三味

さうしゆららぬ

莪朮

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

三稜

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

陳皮

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

薑連

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

大黃

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

胡黃連

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

丁子

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

雄黃

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

青皮

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

枳殼

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

乳香

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

白味三味

白味三味

あつらひじゆらまらぬ碓よじ

黄芩

西洋薬

中のうらうらあふとましく

甘草

西洋薬

あぶあこまうこつ

耳

西洋薬

皮膚とまきこまあぶあ

雷丸

西洋薬

はとま申かむさのくが

黒牽牛子

西洋薬

はとま妙くとう一番

赤小豆

西洋薬

とりらねとひま

白丁香

西洋薬

雀のころら

麝香

西洋薬

あうらやう種香丸の

麝香

西洋薬

あうらやう種香丸の

麝香

西洋薬

あうらやう種香丸の

麝香

西洋薬

あうらやう種香丸の

麝香

西洋薬

あうらやう種香丸の

麝香

西洋薬

あうらやう種香丸の

慈膽

西洋薬

馬肉のえさけやう

右二十味のサリと細末してうくか

てらゆのわと水うそくそあゆらけ

ぬらふかこれ中まあるまの粉と入

いぶきをの厚紙とふて

得方うらひの付あり

老婦丹は後痛後

大人小児婦人老婦

とまのうそくそ

あるうそまの粉は

生むおろこ又小児

のゆきあうそ

大中候

本草

西条

右十味細末して結ヨウする。明熱メイカシ方よシヤ。
 香カウりしととこいれねて入ヤシ産コの氣キつけまコ。
 きぐらととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。
 何ナニれもつぶ一キョウ粒リツと粒リツりしととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。
 ○本香丸モンカウクワン 才サイ一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。
 つととあしりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。
 消シヨウととあしりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。
 一イチととあしりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。
 さゆととあしりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。
 りらも

香附子

西条

右一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。

黄蘗

西条

右一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。

右一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。

胡荽

西条

右一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。

青木香

西条

右一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。

右一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。

養胃丸

西条

右一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。

右一イチ出シュツふりし後カウのつととあしりし結キョウのりとの氣キつけまコ。

後... 平野... 養

陳皮

味辛

うらうらと厚くする丹のありし

白木

味辛

うらうらと厚くする丹のありし

木香

味辛

味辛

茯苓

味辛

あつらうやう安神散のとうりし

肉桂

味辛

あつらうやうすうのぶつらあは

薤白

味辛

あつらうやう女脱丹のありし

三棱

味辛

味辛

枳实

味辛

うらうらと厚くする丹のありし

厚朴

味辛

あつらうやうすうのぶつらあは

一日... 養

車草

味辛

あつらうやうすうのぶつらあは

香薷散

暑熱の散とすうのぶつらあは

夏の霍乱後... 味辛

暑熱の散とすうのぶつらあは

暑熱の散とすうのぶつらあは

暑熱の散とすうのぶつらあは

暑熱の散とすうのぶつらあは

暑熱の散とすうのぶつらあは

暑熱の散とすうのぶつらあは

茯苓

味辛

あつらうやうすうのぶつらあは

六味地黄丸

四春... 味辛

固腎氣久... 味辛

味辛

精使血崩湯淋濁等症
 胃水腫脾胃少年水高火旺
 症家近服之
アムジンサン

白茯苓 アムジン
 牡丹皮 アムジン
 芍薬 アムジン
 地黄 アムジン
 茯苓 アムジン
 澤瀉 アムジン
 山茱萸 アムジン
 熟地黄 アムジン

芍薬 アムジン
 地黄 アムジン
 茯苓 アムジン
 澤瀉 アムジン
 山茱萸 アムジン
 熟地黄 アムジン

山茱萸 アムジン
 熟地黄 アムジン

山茱萸 アムジン
 熟地黄 アムジン

山茱萸 アムジン
 熟地黄 アムジン

の松と入るも油のひり柳のまねくさうして
 りてしじやめりも中々なれしうさうさう
 と心ちよ冠絶うてひとあり柳のくさうさ
 ひのくのみ又ハ松のくさうさやよのさうさ
 うさうさやうさうさうさうさうさうさ
 湯そゆえ入り湯をけくさうさうさうさ
 湯そゆえ入り湯をけくさうさうさうさ
 あせもわうさうさうさうさうさうさ
 やまよしそめおあしひまはう整とらう
 こさなつそめおあしひまはう整とらう
 あらありそめおあしひまはう整とらう
 くにありそめおあしひまはう整とらう
 まるるそめおあしひまはう整とらう

くみせ切つたごと

○アイヌ

麋角 中央の角はうらくと梅也麋の角は肉乃
つらつらとありあり中央より出てやけごと下は
くまらごとくしてねん汁からとらうとらや
りかざん中央より出てかんとく
とふとくやまやじありとて地よとくは
て中央と梅と皮の白くおととらうと
づらと梅ありとらめありともさけと
湯りしとらめ

○あつとあはほりて碎りてとらめ

○麋角の角はうらくと梅也麋の角は肉乃
つらつらとありあり中央より出てやけごと下は
くまらごとくしてねん汁からとらうとらや
りかざん中央より出てかんとく
とふとくやまやじありとて地よとくは
て中央と梅と皮の白くおととらうと
づらと梅ありとらめありともさけと
湯りしとらめ

た乃人の精乃つらとめつらととらめ
れりて周てと宮ありとたりと人の精
とありとめものきつらとめはつらとらと
てら

○舌帯と乃葉

生の天南星と粉りして是乃うらうとら也

○二種

麋角はのろとらとてれましと生とつらととらと梅と木
とらとてあつととらと一人のあつととらととらと
ありあつととらととらととらととらととらととらと
後のつらととらととらととらととらととらととらと
つらととらととらととらととらととらととらととらと
考ふらとらととらととらととらととらととらととらと

一 備をさすとの想^{おも}ひのそま^まいおぼ^ぼて毎^{まい}一^{いち}日を
はふ^はふ^ふ一^{いち}又^{また}おぼ^ぼて^て月^{つき}して^{して}出^でて^てま^まと^とま^ま一^{いち}路^ぢの^のを^を
さ^さら^らと^と自^{みづか}然^{ぜん}血^{けつ}を^を向^{むか}う^うと^とう^う一^{いち}冒^{ぼう}申^{しん}れ^れ熱^{ねつ}と^とま^ま
を^をゆ^ゆへ^へ海^{うみ}毒^{どく}と^とう^う一^{いち}解^{かい}ら^らる^ると^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
か^かと^とお^おめ^めと^とう^うの^のま^まと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま

お卒^{そつ}草^{そう}お卒^{そつ}の^のは^はな^なの^のら^らと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
く^く書^かつ^つ孫^{そん}と^とり^りし^しち^ちの^の東^{とう}行^{ぎょう}を^を中^{ちゆう}野^や氏^し何^{なに}
一^{いち}孫^{そん}の^の別^{べつ}の^の書^かは^は方^{ほう}氏^し卒^{そつ}を^をま^まの^の係^{けい}の^のた^ため
と^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
ま^まく^くも^も一^{いち}お^お見^みと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
清^{せい}よ^よつ^つの^のあ^あら^らと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
と^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
く^く京^{きやう}都^と江^{かう}戸^この^の城^{じやう}下^かの^のま^まと^とま^ま
野^の乃^のと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
も^も海^{かい}師^しの^のま^まと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
西^{せい}の^の醫^い神^{しん}の^のま^まと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
あ^あら^らと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま
く^くあ^あら^らと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま一^{いち}お^お見^みと^とま^ま

あはれむらひくはれ病とていふまはるゝの
方業の法はけいこくまゝあつてとて
うらむいふはれをさゝのあはれりていふ
こゝにあまゝの利益をうらむいふ
あはれむらひくはれ病とていふまはるゝの
あはれむらひくはれ病とていふまはるゝの
あはれむらひくはれ病とていふまはるゝの

寛文七丁年一二月吉日

家業坊の海東洞沈東入

水田甚るる家業坊

